



YKKグループ社会・環境報告書 2006

人類の豊かで健康な生活と環境との調和を目指して

世界を
つなぐ、
世界を
つつむ



CONTENTS

- 02 YKK精神
- 03 トップメッセージ
- 05 CSRと環境
- 07 地域社会とともに
- 13 お客様とともに
- 15 従業員とともに
- 19 地球環境とともに
- 25 第三者意見
- 26 YKKグループの概要

今年度の編集方針

幅広く、たくさんの方々にこの報告書を読んでYKKグループを知っていただきたいという思いから、基本的な考え方を記載した冊子版(本誌)と詳細情報を開示するWeb版に分離し、発行いたしました。

<http://www.ykk.co.jp>

対象範囲

YKKグループ
(YKK株式会社、YKK AP株式会社、海外主要生産拠点など)

対象期間

2005年度(2005年4月1日から2006年3月31日)



YKKグループの事業活動の根底にあるもの

「善の巡環」

他人の利益を図らずして自らの繁栄はない

企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKKの創業者吉田忠雄は、事業をすすめるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。このような考え方を吉田忠雄は『善の巡環』と称し、常に事業活動の基本としてまいりました。私達はこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。



YKKグループの経営のあり方

2005年は、「敵対的買収」に端を発し、多くの企業が「会社はだれのモノか」という経営の基本原則について、原点に立ち返り検討を加えた年であったと思います。

YKKグループでは、創業者 吉田忠雄の「会社は、そこに働く社員や協力企業を含めた関係者のものであり、社員や関係者が一体となって努力することによって会社が発展する。」との経営哲学により成長・発展をして参りました。

また、こうした経営哲学を実践するために、創業間もない頃より、従業員持株制度を導入し、社員が労働に従事するに止まらず、経営参画することによって会社発展の原動力となって参りました。

その後1994年に、創業者 吉田忠雄の経営哲学である「善の巡環」を、時代は変わってもYKKグループの経営活動の基本姿勢を表現するYKK精神と位置付けた上で、YKKグループの経営の使命・方向・主張を表現する経営理念「更なるコーポレートバリュー(企業価値)を求めて」を制定いたしました。

敵対的買収以降、「企業価値」という言葉が世の中に氾濫しておりますが、こうした状況を見るにつけ、10年も

前より企業価値を高めることを経営の使命として掲げてきた私共の姿勢は正しかったということと併せて、企業価値を高める取り組みを一段と強化する必要性を改めて認識いたしました。

YKKグループの経営のあり方について具体的に申し上げますと、

YKKグループはあらゆる経営活動において「公正」を価値基準として、経営と社員とが一体となって更なる企業価値向上に取り組みます。

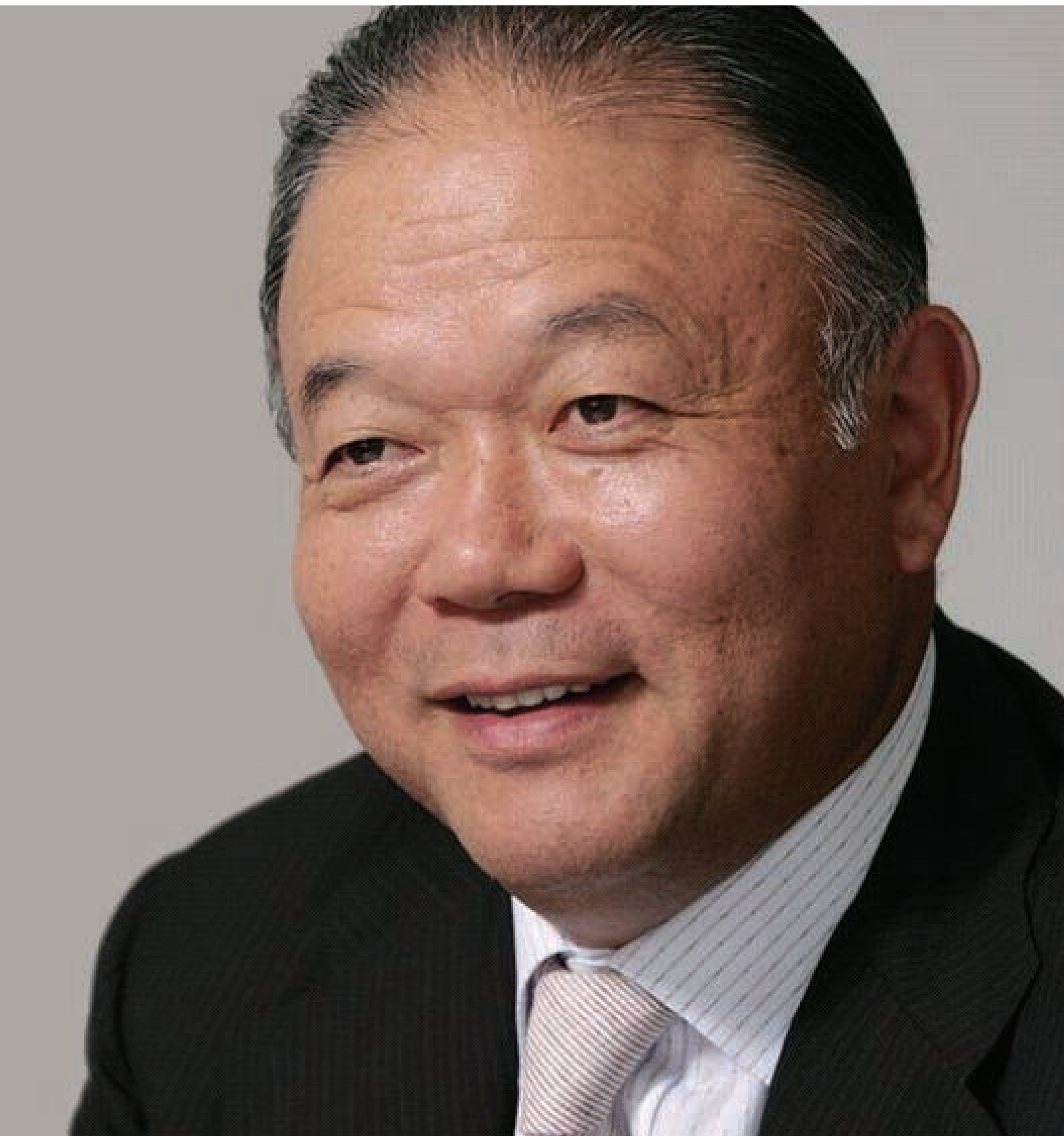
その結果として、長期にわたり、あらゆるステークホルダーから信頼され魅力ある会社を目指します。

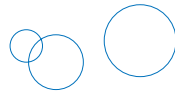
これからも、皆様からよりいっそうの信頼を得られるよう企業価値の更なる向上に努めていく所存であります。皆様の忌憚のないご意見・ご指摘をいただければ幸いです。

2006年 7月

YKK株式会社 代表取締役社長

吉田忠裕





YKKグループに根付くCSRの理念

今日の企業経営にとってCSRへの取り組みは大きな経営課題であり、その行動は経営理念と合致するのが望ましく、それぞれの企業にとってその実践が必要不可欠であると思えます。

企業の責任概念は収益という経済的側面だけでなく、経済活動のプロセスの中で、社会的公正性や倫理性、そして環境側面が大きな部分であることを認識しています。

地球環境の深刻化や地球資源の有限性が強く認識され、一般社会生活において「地球が最大のステークホルダーとして登場する」という言い方もされています。そのため、企業は特に環境に配慮した積極的な行動を取る事で、最終的に高い評価を受け、企業価値に繋がっていくこととなります。『環境経営』...それはこの地球で事業を営む上での、まさにCSRです。

現在、YKKグループは「ファスニング事業」と「建材事業」を2つの中核事業として、日本を含む世界70ヶ国/地域、122社で事業活動を行っています。私たちは半世紀近くも前から文化や言葉の壁を乗り越え、善の巡環の企業哲学、更なるコーポレートバリューを求める企業理念を持って、グローバル展開を推進してきた企業です。

特に、CSRの中で意識している第一の原則は「現地主義」です。

海外に展開する時、労務費コストを意識しての事業展開ではなく、市場からの要請、地域産業の要請を受けての進出で、その国で「土地っ子になれ」を合言葉に、その国に根付き、現地のマーケットに応じた事業に知恵を絞り、ビジネスを成功させ、現地の収益は再投資を優先し、また、現地で人材を雇用、育成、登用し、企業の運営も委ねてきました。

第二の原則は、世界レベルでの「品質至上主義」です。

完全一貫生産体制は、モノづくりの「システム」すべてを移植し、原材料から製品化にいたるまでの全工程を自社開発生産するため、YKK独自の生産設備の開発までも自ら手がけています。従って、YKKのモノづくりは、世界中同じ技術、同じ機械、同じ品質をコンセプトに世界品質にふさわしいクオリティの創出につなげることが基本であり、既に多くのグローバル顧客から、世界のどこの国から調達しても、YKKブランドとして安心して供給を受けられることで評価されています。

第三の原則は「世界的視点に立った環境問題対応」です。

ボーダーレスな現代社会の環境問題への対応には、グループ全域での同一方針・同一行動が必須です。地域ごとの課題を把握し、解決に向けて取り組むとともに、対策を全域にフィードバックし水平展開を図ることで、グループ全体の環境対応能力を高めています。

当然のことながら、世界の拠点でISO14001の認証取得を推進しています。今までに国内7サイト、海外50サイト、計57サイトの取得を完了しました。

グローバル展開の推進は、国ごとの価値観や慣習が異なることから時間がかかる作業ではありますが、現在、各社ごとに蓄積されてきた環境CSR活動をベースとして、グループ全体のレベルアップを図っています。その中でも、特に環境商品開発には積極的に経営資源を投入し、活動を推進しています。

YKKグループは更なるCorporate Value(企業価値)を求めて、『善の巡環』という企業精神をベースにした7つの分野に新たなQuality(質)を追求し、これからも今まで以上に「安心してお付き合い頂ける会社」「真に国際的な会社」「新たな価値を創造する技術の会社」として認知して頂ける企業を目指します。そのことがCSRの理念にもとづいた持続的企業活動であり、それによって良き企業市民として求められる責任を果たすことになると思います。



YKKグループ
環境政策委員会委員長
YKK(株)代表取締役 副会長
田家 清

世界70カ国 / 地域122社 (国内23社、海外99社)

ヨーロッパ・中東・アフリカ31社

東アジア
24社

日本
23社

北中米15社

ASEAN・南アジア・オセアニア24社

南米5社

中国に認められたYKKグループの企業価値

中国で『YKK』が日本企業で初の「中国馳名(ちめい)商標」に認定され、
『YKK APの窓シリーズ』が「優秀技術ブランド」として表彰されました。

< 詳細アドレス > http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/g_news/2005/20050629-2.html
<http://www.ykkap.co.jp/news/2005/20051227.asp>



地域社会への貢献に対するYKKグループの考え方

YKKグループの企業活動の根底には、“他人の利益を図らずして自らの繁栄はない”という『善の巡環』の精神が貫かれています。この精神のもと、本業を活かした社会貢献から、本来の事業活動から離れた教育や地域の活性化、そして国際交流のバックアップなど、さまざまな活動にも積極的に取り組んでいます。

YKKグループがいつの時代も地域に愛され、社会に愛される企業でありつづけるために、これからも新しい文化の創造に貢献できるような活動を、地道に行っていきたいと考えています。



YKKグループは未来を担う若い世代を応援しています。



YKKファスニングアワード:

ファスナー・面ファスナー・バックル・スナップ & ボタンなどの“ファスニング商品”に焦点を当てた、学生対象のユニークなファッションコンテストです。有望な新人の発掘、支援を目的とし、優秀者には賞金のほかに、副賞として創作活動用の副資材を卒業まで提供します。
<http://www.ykk.co.jp/fa/>



全日本少年サッカー大会:

少年たちのサッカーへの興味、関心を深め、さらに技術の向上と健全な心身の育成・発達を図ることを目的として1977年より毎年開催されています。YKKグループは、1980年からこの大会の協賛を行っています。全国のYKKグループ社員が、各地での運営協議会や集い、表彰式などに参加し、各地域で交流を重ねるとともに、大会を盛りあげています。
<http://www.u12-football.com/>



JSEC:

「ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ 高校生“科学技術”チャレンジ」(主催:朝日新聞社 後援:文部科学省他)通称JSECは、高校生が科学技術の分野で独自性・創造性を競うコンテストです。2005年度より、グローバルなフィールドで更なる活躍をしていただきたいという思いから、「YKK特別賞」が新設されました。
<http://www.jsec.net/>

国際交流支援:

世界の子供たちとの交流と友情の輪を広げるため、「黒潮物語元気な子の会」(代表:小林一平、本部:神奈川県藤沢市)は日本各地でメッセージボトルの放流活動を行っています。YKKIはこの活動に賛同し、1998年から水密・機密ファスナー付メッセージボトルを提供しています。長さ70cm、直径20cmのメッセージボトルは、水をシャットアウトし、空気も漏らさないため沈むことなく黒潮の長旅に耐えることができます。



水密・機密ファスナー付メッセージボトル

YKKグローバルワークショップ:

大学生が、YKKグループの海外事業所や生産現場での仕事体験、現地における地域貢献活動や環境問題への取り組み、大学、公共機関への訪問など、さまざまな活動を行い、このプログラムの経験が、将来ビジネスにおける物の見方や考え方はもちろんのこと、あらゆる面でグローバルな社会人になるためのきっかけになればとの願いから企画されました。2006年はアトランタと上海にそれぞれ3人の大学生を派遣し、2月12日~17日(アトランタ)、2月19日~24日(上海)の日程で開催されました。
<http://youth-ykk.jp/asahi/>



パキスタン地震災害への救急テントとして、 「エマージェンシーユニット」が活躍

2005年10月8日、パキスタン北部で発生した大地震に対し、日本政府はパキスタン政府からの要請にもとづきJICA(国際協力機構)国際緊急援助隊を派遣。レスキュー、医療からなるチーム総勢70人が現地ですべての支援にあたりました。このとき、YKK APの「エマージェンシーユニット」が(快適仮設空間装置)ここでも性能・機能が認められ、国際緊急援助の場に採用されました。



エマージェンシーユニット

エマージェンシーユニットは、地震などによる自然災害、紛争(戦争)などによる被災者の支援、さらに難民人口の増大を背景に、YKKのファスニング事業、建材事業で培った技術をYKK APが結集して開発した快適仮設空間装置です。操作が容易なファスナーのジョイントにより、小部屋から部屋ごとに区切った連結空間まで各ユニットの連結が自由自在です。たたむと小さくなり軽いので、移動や組み立て・片付けが簡単です。また、気密性の高い特殊なファスナーを使用しているため、窓や扉がびったり閉まり、外の寒さや砂などが入るのも防ぎます。



↑ 約15分で完成

↓ <解体>



給排気口からブローアにより空気を入れ、膨らませる



給排気口からキャップを外し、ブローアで空気を抜く



本体のファスナーをジョイントする



連結部のファスナーを外し、残った空気を抜き出す



収納カバーから本体を取り出し、広げる(基本ユニットで18m²)



本体を折りたたみ、収納カバーにしまい完了

< 設営 >



地域に根ざし、社会とともに

YKKグループは、徹底した現地主義を採用し、地域社会の一員として事業活動を推進し、地域の活性化や教育、そして国際交流のバックアップなど、さまざまな活動に積極的に取り組んでいます。

< 教育支援 >



環境教育のため中・高校生を受け入れ (YKKインド社)



小学校へへの出前環境教育 (YKKフィリピン社)



奨学金支援 (YKKスリランカ社)



学校へのパソコンの寄付 (YKKジブコ社)



学校へのパソコンの寄付 (YKKインドネシア社)



高校生対象の技術見学会の受け入れ (YKKシンガポール社)

< 環境美化活動 >



苗木をイラブアト市に寄贈、緑化に貢献
(YKKメキシコ社)



市蓮花山公園での植樹活動(YKK深圳社)



砂漠緑化事業への協力(YKKエジプト社)

< 地域支援活動 >



児童擁護施設でのキムチ作り(YKK韓国社)



スマトラ沖地震被災者へ家を5軒贈呈(YKKスリランカ社)



市主催チャリティー演劇団への会社施設の提供
(YKKブラジル社)



お客様とのコミュニケーション、品質に対するYKKグループの考え方

YKKグループは、お客様の声に耳を傾け、独自の発想力と確かな技術力で質の高い商品を提供しつづけ、これからの暮らしと社会に、先進の快適性をお届けする企業を目指しています。お客様とのコミュニケーションを充実させることで、相互理解と今後の事業活動の向上に努めます。また、グローバルアカウントに対応すべく、グローバルスタンダードを目指し、「世界同一技術、同一機械、同一品質」をコンセプトに差別化された生産ラインの開発に挑戦しています。





完全一貫生産体制:

お客様に最高の品質をお届けし、それを保証するために、原材料から製品化にいたるまでの全工程を自社で行い、また一般的なメーカーであれば外部から調達している生産設備の開発までも自ら手がけています。

グリーン調達:

仕入先の皆様との協同的な取り組みにより環境負荷の着実な低減と環境リスクの回避を図るとともに、エコプロダクツ開発の指針となることを目的として、「グリーン調達ガイドライン」を策定しています。

仕入先の皆様へアンケート調査を行い、それから得られた情報をデータベース化し、商品に含有される有害化学物質の削減、および商品開発・設計の段階で環境負荷の低い材料や部品を選択できるように役立てています。

エコプロダクツ:

環境に配慮した商品(エコプロダクツ)の定義を「環境高性能」;社会が求めるエコプロダクツの基準を満たす、「安全・安心」;使用する人が安心して使える、「快適生活スタイル」;お客様個々のスタイルに合わせた快適な暮らしを支える商品の提案と定め、その考えを開発する商品に取り入れることで、商品を通じて循環型社会構築に貢献していきます。また、多くのお客様にエコプロダクツを実感していただけるよう、エコプロダクツ2005(主催:(社)産業環境管理協会、日本産業新聞社)へも出展しました。



インターナショナルビルダーズショー:

2006年1月11-14日に、アメリカ フロリダ州オーランドにてインターナショナルビルダーズショーが開催され、YKK APアメリカ社は、通常展示の他にセミナーエリアを設け、ハリケーン地域用窓のプレゼンテーションを行いました。



雇用や安全・健康に対するYKKグループの考え方

YKKグループは、一人ひとりが自律的に働きながら、互いに尊重し、助け合い、強い組織となる、そしてお客様や社会に、常に新たな価値を提供し続け、貢献できる会社であることを目指しています。また、すべての職場の危険有害要因の排除と働く人の心と身体の健康を保持増進し、時代にふさわしい働きやすい職場環境の形成を目指しています。





北中米でのリーダーシップ研修

人材育成:

創業時より、社員のチャレンジ精神を尊重し、若いうちから積極的に責任ある仕事を任せることで社員の成長を促しています。また、社員の成長を支援、促進するためさまざまな知識やスキルの教育を行っています。教育は、新入社員から管理職まで幅広く対象とし、集合研修、eラーニングや通信教育など、さまざまな方法で内容の充実を図っています。海外会社では経営マネジメントの現地化を推進しており、海外ローカルスタッフの教育にも力を入れています。



管理職候補者のリーダー研修

多様性と機会均等:

YKKグループでは、国籍・年齢・性別にかかわらず、個人の意欲と能力に応じた仕事の機会と公正な評価の実現を進めています。

< 女性の活躍推進 >

制度充実による働く環境の改善や、管理職候補者を対象としたリーダー研修による登用の促進など、積極的に取り組んでいます。職場責任者クラスへの登用、海外赴任などの実績もあがり、女性の活躍の場は広がっています。また、仕事と家庭との両立支援制度も充実を図っており、多くの社員が利用しています。

< 高齢者雇用政策 >

2005年度より「定年退職者再雇用制度」を導入しています。この制度により、定年退職者の雇用機会が拡大しました。2005年度に新たに36名を加え、現在51名の再雇用者が、知識・経験を活用し、技能・能力を発揮しています。

< 障害者の雇用 >

1999年に印刷業の特例子会社であるYKK六甲株式会社を設立し、障害者雇用の象徴としてグループ全体での推進を図っています。



障害者雇用の促進(YKK U.S.A.社)

働きやすい職場づくり:

「快適ワーク推進事務局」を設置し、労働環境のモニタリングや従業員からの相談を受け付け、職場環境の改善を図っています。また、「健康」「心の悩み」「セクハラ」などに関しては、社外に相談窓口を設け、専門カウンセラーが対応しています。

さらに、法令遵守体制の一環として「YKKグループ内部通報制度」を導入しています。社内での法令・社内規則違反を匿名で報告できる仕組みになっており、社内だけでなく社外にも窓口を設けて対応しています。

育児勤務制度利用者の声

育児勤務制度を利用し、短時間勤務をしています。

1日2時間の勤務時間短縮により、育児時間も確保でき、充実した日々を過ごしています。職場の理解とサポートもあり、安心して働くことができます。



グループ経営管理センター
前田 真理子



YKKグループでは『危険ゼロ』を目標に、危険性・有害性等の調査(エネルギーリスクアセスメント)の実施と労働安全衛生マネジメントシステムの導入を進めています。

安全衛生教育:

『安全な人づくり』を目指してKYT教育・職長教育・エネルギーリスクアセスメント教育などの一般教育からVDT作業教育・産業用ロボット教育などの特別教育まで19科目の教育講座を開設しています。

2005年度は、黒部事業所で約1,300名以上が受講しました。

また、グループ安全衛生協議会主催による安全講演会を『生産性向上の条件としての安全性確保』演題として実施しました。経営者から、職場の責任者、開発・設計者等、約250名が講演会に参加しました。

安全衛生マネジメントシステム:

安全衛生管理の向上、労働災害の撲滅へ向けた最良のシステムと認識し労働安全衛生マネジメントシステムの導入を進めています。

2007年末までにYKKグループ(国内全事業場・関係会社)全社で導入する計画をたてています。YKK(株)ファスニング事業本部 黒部事業所は、2003年5月に取得した、JISHA方式適格OSHMSの3年経過の更新審査を受けました。

2005年12月7日、台湾行政院勞工委員会(労働省相当)主催の『全国安全衛生管理制度』講習会が開催され、YKK台湾社が、『OSHMS(JISHA認定制度)の導入』と題して推進経験の報告を行いました。



安全講習会



JISHA方式適格OSHMS認定証授与式



「全国安全衛生管理制度」研修会(台湾)

従業員の健康は、充実した社会・職業生活を送るために欠かせない重要な要素と認識し、健康診断受診率100%を目指すとともに、生活習慣病・メンタルなどの疾病予防を目的とした健康教育を実施しています。

YKKグループの喫煙対策：

喫煙が健康に与える影響は大きいうえ、受動喫煙の危険性やニコチンの依存性を踏まえると、喫煙習慣は個人の嗜好にとどまらない健康問題であることから、生活習慣病を予防するうえでも、喫煙対策は重要な課題になっています。YKKグループでは、喫煙や受動喫煙の危険性や禁煙による効果などの知識の普及を図るため、5月31日の世界禁煙デーに合わせ、禁煙ポスターの掲示や産業医や保健師を講師とした禁煙講座を開催しています。また、6か月間の禁煙プログラム「チャレンジ禁煙」を設け、従業員の禁煙支援も行っています。



禁煙講座

「チャレンジ禁煙」で禁煙に達成された方々の声

ニコチンやヤニが体から取れたせいか、臭覚や味覚が敏感になったり、偏頭痛がなくなったりして健康体になったように思います。今回の成功のポイントは、禁煙時に発生する症状を自分の中に認識していたことがもっとも大きい要因だと思います。一番苦しい時に、この症状はあといつまで続いて、その後どういう症状が待ち構えているか事前に分かっていたので、我慢もできたし、不安にもならなかった。禁煙日誌を書くことは大変でしたが、自分のモチベーションを維持できたことや産業医の先生や保健師さんと二人三脚で頑張っているような感じがして心強かった。

34歳 男性

健康のためには、いつかはやめなければならぬとは考えてはいましたが、こんなに簡単に達成できて満足しています。ニコチンパッチを使用することで、誰でも簡単に禁煙ができると思います。自信を持って実践することがポイントだと思います。

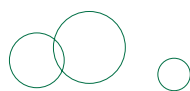
56歳 男性

以前よりも痰が絡むことがなくなった。家での食事時やトイレ内などでタバコの臭いがなくなったので、家族から文句を言われなくなった。多少飲みすぎても二日酔いしにくくなった。タバコを切らしたときのイライラがなくなった。タバコで車のシートを焦がしたり、窓を開けて走行しても灰が舞わず清潔になった。風邪をひきにくくなった。

48歳 男性

禁煙を始めて、1週間くらいで歯磨きの時の咳や痰が出なくなり、体調が次第に改善されて行くのを実感できた。中国の上海へ飛行機で行くののためらっていたが、今後はどこまでも遊びに行けるようになった。

55歳 男性



環境への取り組みに対するYKKグループの考え方

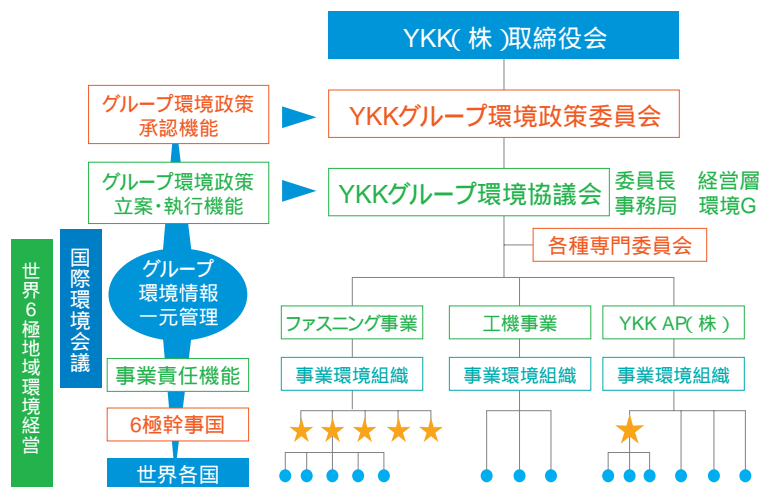
YKKグループは、1994年9月に『YKKグループ環境憲章』を制定し、グループ全社を挙げて環境対策に取り組んでいます。この環境憲章は、人類の豊かで健康な生活と環境との調和を目指し、企業活動のすべてにわたって環境の保全・改善に向けて行動することを基本理念に掲げています。深刻化する地球環境問題への全地球規模での取り組みによる持続可能な循環型社会システムの実現が必須の課題となっています。

YKKグループは事業活動の全ての分野において、環境政策を組織的・戦略的に推進することによって環境経営体制を確立し、循環型社会の構築に寄与します。



YKKグループ環境経営体系:

地球環境を守るための企業の社会的責任を明確にするため「YKK精神」にもとづくグループ統合環境政策として、『環境と調和した事業活動の推進』を事業の最優先課題とすることを1994年に環境宣言しました。世界視点に立った環境問題対応が必須と考え、世界のあらゆる地域で同一歩調をとる世界6極地域環境経営を推進しています。



環境経営4つの約束:

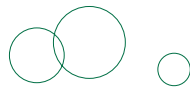
YKKグループは、主要事業である建材事業やファスニング事業がおよぼす環境負荷低減のために、4つの項目を中期環境経営基本政策と定め、それに沿った環境行動目標に取り組んでいます。

政策 1
エコプロダクツ・サービスの開発と提供
 YKKグループは、商品を通して循環型社会の構築に貢献します

政策 2
環境負荷低減経営の更なる徹底
 YKKグループは、事業活動における環境負荷の低減を徹底して進めます

政策 3
グローバル環境経営システムの構築と活用
 YKKグループは、世界のあらゆる地域で『環境との調和』を最優先とした環境マネジメント活動を続けます

政策 4
環境コミュニケーションの推進
 YKKグループは、環境政策を進める上でお客様との『対話』が最も重要であると考え行動します

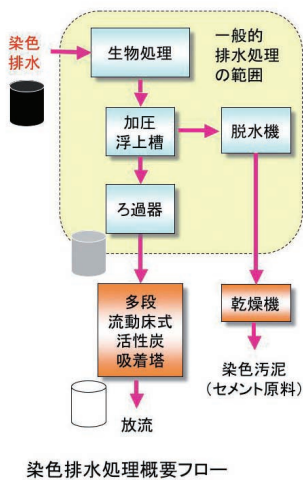


YKKグループは、貴重な淡水資源を守ります

地球上に存在する水の97.4%は海水です。淡水はわずか2.6%にすぎず、しかもその大部分は南極や北極の氷です。国連の発表によると、比較的簡単に私たちが飲んだり使ったりできる地表付近にある清浄な淡水は0.007%というごくわずかな量にすぎません。YKKグループはこの貴重な水を守り続けたいと願い、グローバルな水環境保全(世界のどここの国・地域でも通用する排水処理技術・設備)に取り組んでいます。

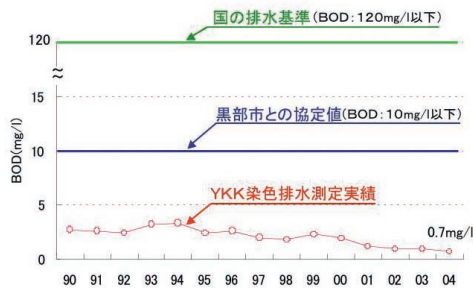


名水の里黒部に位置する、YKK 黒部工場とYKK AP 黒部製造所、黒部越湖製造所。黒部川の扇状地にあり、豊富で質の良い地下水に恵まれています。



高度処理とリサイクル:

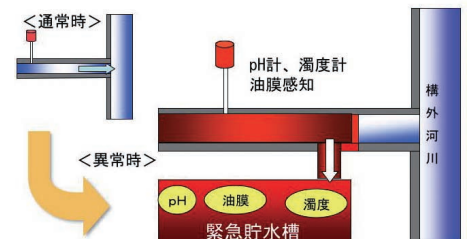
ファスナーの染色排水処理施設では一般的な排水処理の後にさらに「活性炭吸着」という高度な処理を行っています。その結果、染色排水の実績値は、国の基準よりはるかに厳しい黒部市との協定値よりも、さらに低い値となっています。



YKK染色排水の水質推移—BOD(生物学的酸素要求量)

緊急排水貯水槽(リスク管理):

工場内の排水は処理施設で処理され、構外へ排水されますが、排水口の手前にはセンサーがあり、異常を感知すると、構外へ流れる排水口の水門が作動し、緊急貯水槽へ排水が貯められます。この緊急貯水槽は、排水半日分の容量があり、12時間以内に異常の回復修理を行い、通常排出できるようにします。



回収冷却水や雨水を地下へ浸透させ、流域の浅層の地下水を涵養させています



側面が石積みで浸透性を持つ冷却水回収池



雨水浸透樹



雨水浸透側溝



雨水浸透アスファルト(駐車場)

工場排水放流先の河川環境を総合的に評価するため、水生生物調査を行っています



水生生物の採集



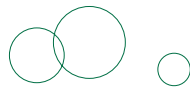
清流の魚ヤマメ



地点ごとに採集した水生生物の分類作業



標本として保管



環境負荷低減経営

地球温暖化防止:

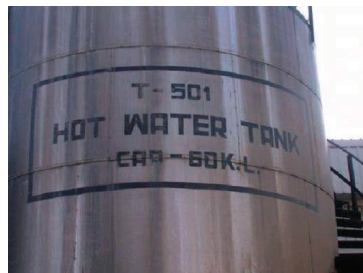
工場の新設や設備更新時の高効率設備の導入、工程改善、設備の管理標準の整備などの省エネルギー活動を積極的に推進しています。また、「チーム - 6%」に参加し、一人ひとりが身近にできる活動を考え実践しています。



自然光利用による照明の省エネ
(ニュージッパー社)



高効率ボイラーの導入(YKKギリシャ社)



排温水の有効利用(YKKインド社)

資源循環:

廃棄物を資源と考え再資源化し、ゼロ・エミッション達成に取り組んでいます。2005年度には国内の生産拠点でゼロ・エミッションを達成し、今後は廃棄物総排出量の削減や再資源化方法の質の向上を目指し、更なる環境負荷の最小化に努めます。



生ゴミ、芝の堆肥化
(YKKポルトガル社)



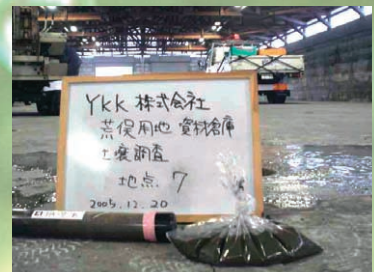
排水処理汚泥のセメント原料化
(YKKメディテラネオ社)

環境リスクマネジメント:

法律や協定などの遵守はもちろん、化学物質の適正管理、土壌・地下水・大気・水域への地域環境保全および環境事故の未然防止活動など環境リスクの低減に努めています

< 土壌調査 >

YKKグループでは、土壌保全は地域環境保全及び土地資産価値の観点から経営リスクマネジメントにおいて重要なものと位置付けて取り組んでいます。YKKグループが所有する国内322拠点のうち172拠点が調査済みで、浄化が必要な土地は出ていません。残りの土地についても2008年度までに全拠点の調査が完了する計画を立て実施しています。



土壌採取

< PCB対策 >

PCB(ポリ塩化ビフェニル)は2001年にPCB特別措置法が施行され、2016年度までの適正な処理が義務付けられています。トランスやコンデンサなどのPCB含有機器は、法に則り管理・保管しています。これらは自治体で作成する処理計画に参画し、適正処理を行います。

また、PCBを微量に含む設備についても、2003年度からYKKグループでの取り扱いに関する指針を作成し、運用中です。グループ国内でのブロック保管体制も構築しています。



転倒防止措置をして保管されているトランス

YKK国内グループに関するアスベスト問題について

商品でのアスベスト使用状況

ファスニング商品は、過去においてもアスベストを使用した商品はありません。

建材商品は、現在はアスベストを使用しているものはありませんが、過去においてアスベストを使用している商品がありました。しかし、すべての商品において、使用形態は密閉状態または非飛散性建材としての使用であり、アスベストが飛散する可能性は極めて少ないと判断しておりますが、解体時にはアスベストが飛散しないよう適切な処置をお願いしています。過去の建材商品のアスベスト使用状況および健康被害についての詳細はYKK APサイトをご覧ください。

<http://www.ykkap.co.jp/cominfo/asbestos/index.asp>



YKKグループの環境・社会への取り組みについての第三者意見

創



事業活動での取り組みについて:

今回はYKKグループに根付いているCSRの原則のうち、「現地主義」について特に中国の展開についてお話を伺いました。多くの企業が低コスト生産を主にして中国に進出していますが、YKKでは当初より現地主義にしがって地域に根づいた活動をされています。2005年にはYKKファスナーが中国政府より「中国馳名商標」を認定されたことなどは、これまで同社の活動が中国国民を向き継続した努力であった成果といえるでしょう。中国では急速に経済が発展する一方で、環境問題や労務・人権対応を含めたCSRへの取り組みへの配慮も求められ始めています。これからは、YKKがこれまで続けてきた地域の経済性や人材の育成に主眼を置くという経営が、ますます評価を得る時代になると考えます。今後とも地域での展開を軸に置きつつ、本社を中心に全体を統括するグローバル展開を続けてください。



社会・環境報告書2006について:

本年の報告書は、誰にでもわかりやすい内容を主眼におかれているということです。今回はYKKグループの特徴であり強みでもあるグローバルな展開を強調しており、世界各地でステイクホルダーと連携した活動が日常的に行われていることが伺えます。昨年のコメントについて、今年の成果と進捗をみてみました。

・YKKグループ独自の従業員との かかわりの視点

人材がグローバルに展開している一方で、人事関係の記載範囲が日本に限られているところが多く見られます。できればグローバルでの人材育成の観点がもう少し記載されると、現地主義の実感がよりわかりやすくなると感じます。

・地域活動

社員や地域法人が率先して現地の地域活動に参画している様子が伺えます。ここに多くの社員の方々を掲載・紹介することにより、社員皆さんの意識も高まり地域に還元する意欲がまた高まるものと思います。この報告書を、地域の方々とより広くコミュニケーションするきっかけに使われることを期待いたします。

・主要2事業の環境・社会活動の説明

YKK APの活動については別途で報告されていますが、本報告はYKKグループ全体の事業範囲としていることから、もう少しYKKとYKK APそれぞれの社会・環境活動の特徴がわかるようにすることが必要ではないかと考えます。

・ダイジェスト版冊子と詳細ウェブ版

今回、詳細な情報編についてはウェブに掲載することによって、誌面の制約にとらわれずに詳細なデータにまで開示できていることは、工夫された公開の方法です。冊子版のなかで、主要な指標データだけは掲載するとダイジェストとしても必要な項目がカバーできるので、その点ご検討いただきたいと思います。

今後とも「善の巡環」とYKKグループの原則に基づき、世界の規模で現地展開を進めていられることを期待いたします。

海野みづえ

株式会社 創コンサルティング
代表取締役 海野みづえ

プロフィール

千葉大学大学院修了後、経営コンサルティング会社勤務を経て、1996年(株)創コンサルティングを設立。
東京大学大学院 新領域創成科学研究科 非常勤講師
法政大学大学院 環境マネジメント研究科 非常勤講師
(社)日本能率協会 CSR登録主任講師
環境プランニング学会 理事

YKKグループの概要

【YKK株式会社】

創 業	1934(昭和9)年1月1日
資 本 金	119億2,271万円
従 業 員	3,373名 2005年12月末日現在
製造品目	ファスニング製品、精密機械・装置・金型
本 社	〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1 TEL 03-3864-2000
工 場	黒部工場、黒部牧野工場



ファスニング事業:

服・カバンなどに使われるファスナー・ボタン・テープなどに加え、さまざまなファスニング商品をご提供しています。その用途は衣料品だけでなく、靴や寝具、医療分野、産業資材と多岐にわたります。

工機事業:

YKKグループの要素技術や研究開発を要として、長年つちかった技術とノウハウを結集し、独自の生産機械、システム、金型などを世界各地のグループ工場へ提供しています。

【YKK AP株式会社】

創 業	1957(昭和32)年7月22日
資 本 金	100億円
従 業 員	12,416名 2005年12月末日現在
製造品目	建材製品
本 社	〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1 TEL 03-3864-2200
工 場	東北事業所、黒部製造所、黒部越湖製造所、 黒部荻生製造所、滑川製造所、四国事業所、 九州事業所



住宅建材事業:

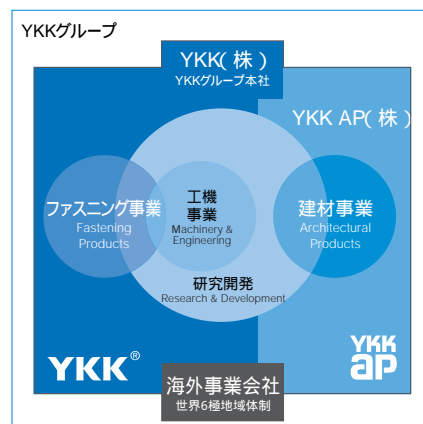
より快適な暮らし、新しい暮らしのための住宅を目指し、ドア・サッシからエクステリア、外装建材まで、アルミはもちろん木質系素材や樹脂などをベースに、基本性能をプラス、色やデザインの豊富なバリエーションと機能性を追及したさまざまな商品をお届けしています。また、バリアフリー、断熱環境、リサイクルなどの新しい次元のニーズにも的確にお応えしています。

ビル建材事業:

独自の一貫生産システムとグローバルな展開と数々のビッグプロジェクトでつちかってきた豊富なノウハウを活かし、超高層ビルから中・低層ビルまで、コンポーネントの開発から製造、施工、アフターサービスまで、しっかりとサポートしています。

【YKKグループ】

グループ会社	世界70カ国・地域 122社
	国内 23社
	海外 99社
	(88工場など計270拠点)
従 業 員	39,300名(国内17,700名 海外21,600名) 2005年12月末日現在





みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

YKKグループはチーム・マイナス6%に参加しています



YKKグループ

YKK株式会社 / YKK AP株式会社

〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1
URL <http://www.ykk.co.jp>

お問い合わせ先
YKK株式会社 環境安全衛生グループ
〒938-8601 富山県黒部市吉田200
TEL:0765(54)8160 FAX:0765(54)8149
E-mail:kankyo@ykk.co.jp

発行:YKKグループ 環境協議会 2006年 7月



この冊子は再生紙(古紙100%)、アロマフリー型大豆油インキを使用しています。

